

笛吹市探訪

境川町坊ヶ峯

坊ヶ峯は標高約395で、境川を代表する景勝地の一つです。江戸時代の歴史書である「甲斐國志（かいこくし）」によれば、棒ヶ峰とも書くとされています。もともとは、坊（お坊さんが住む建物）がたくさんあったため、このように呼ばれたと考えられます。

歴史上この坊ヶ峯を有名にしたのは、甲斐国守護である武田信繩（のぶつな）の子で武田家の家督を継いだ信虎と、その叔父であり勝山城（旧中道町）の城主である油川信恵（のぶよし）との



勝負(菖蒲)ヶ池付近



角田星指氏句碑

合戦です。この合戦では信恵が負けて戦死しました。

今はかれています。坊ヶ峯山頂にあった池は、勝負ヶ池（しょうぶがいけ）もしくは菖蒲ヶ池とも言われ、毎年5月5日の夜には、池の底から刀の音が聞こえたという伝説が残っています。

もともとこの場所は藤壑（ふじぬた）村の入会山でしたが、江戸時代に没収され、日当たりのよいところは新田として開墾（かいこん）されました。

この坊ヶ峯からは甲府盆地や三方の山々を見渡すことができ、その眺望のすばらしさから観光山梨新十景にも選ばれています。

また、昔行われた俳句公募において、境川出身の俳人である飯田蛇笏（いいだだこつ）先生によって第一席に選ばれた、境川の角田星指（つのだせいし）氏の「霜月の風に鳶（とび）舞ふ坊ヶ峯」という句碑が建てられています。

一般的に、坊ヶ峯から市川三郷町（旧三珠町）までの平坦な丘陵（きゅうりょう）は曾根丘陵と呼ばれています。坊ヶ峯の東側を流れる境川という川の名前は、江戸時代の広域地名である九筋（くすじ）のうち、八代郡の小石和筋・中郡（なかごおり）筋の境、さらにこの地形的な境界に流れるため、名付けられたと言われています。

昭和30年代にNHKの送信所が建設されたのを皮切りに、テレビ・ラジオの鉄塔が立ち並び、最近では携帯電話のアンテナも加わり、現在9本のアンテナが建っています。

中でもNHKの鉄塔は夜10時頃までライトアップされていますので、昼と夜で違った表情の坊ヶ峯を見ることが出来ます。



坊ヶ峯遠景(東から)